

平成19年度 事業評価書

地域名	岩手県住田町	選定年度	H16年度	事業規模	小規模事業
まちづくり協議会名	住田町森林林業日本一の町づくり推進協議会				
モデル事業名	森林林業日本一の町づくり推進事業				

1. 事業の実施状況

委託事業	事業期間	H16年度	普及啓発事業として、森林・林業体験教室、森林インストラクター養成講座等の開催。森林学習資料を作成した。
		H17年度	普及啓発事業として、森林・林業体験教室、森の案内人講座、FSC森林認証公開講座等の開催。木質バイオマス普及パンフレット等を作成した。
		H18年度	森林・林業体験教室、森の案内人講座、木質バイオマス発電及びペレットボイラーの説明用パネルを作成した。
	事業完了後	H19年度	事業完了後であり、事業は実施していない。
交付金事業	事業期間	H16年度	木屑焚きボイラー整備事業として、木工団地内で発生する木屑を燃料とした木屑焚きボイラーを設置。 木質ペレットストーブ普及事業として、一般家庭等へ木質ペレットストーブを導入。
		H17年度	発電施設等整備事業として、H16年度に設置した木屑焚きボイラーの蒸気による発電施設を設置。また、隣地に建設される園芸ハウスへの、同ボイラーからの蒸気及び同発電施設からの電気の供給設備を整備。 木質ペレットストーブ普及事業として、一般家庭等へ木質ペレットストーブを導入。
		H18年度	木質ペレットボイラー導入事業として、町内観光施設にある風呂の石油ボイラーにペレットボイラーを追加整備。 木質ペレットストーブ普及事業として、一般家庭等へ木質ペレットストーブを導入。
	事業完了後	H19年度	事業完了後であり、事業は実施していない。

2. 評価・分析

①事業の特色・モデル性	<p>森林地域としての特性を活かしたハード整備を行うとともに、森林・林業に係る人づくりにも取り組んでおり、その取組は評価できる。今後も引き続き交付金で導入した設備を活用した普及啓発を行うなど、地域内での更なる展開を期待したい。</p> <p>木工団地内で発生する木屑を木材乾燥用等の燃料として活用する取組は、二酸化炭素排出量を削減するとともに、燃料費等のコスト削減にもつなげており、初期投資の回収期間が3年以内と経済性が高く、民間の理論においても導入でき、モデル性の高いものである。</p> <p>林業日本一を目指す町として、木工団地活用と人材育成の両輪をうまくつないでおり、同じ山間地のモデルとして生かされるもので、高く評価できる。</p>
-------------	---

地 域 名	岩手県住田町	選定年度	H16年度	事業規模	小規模事業
②環境保全効果 (二酸化炭素排出削減効果等)	二酸化炭素排出削減効果		備 考		
	目 標 値	7,048.5	H16年度、H17年度、H18年度事業分		
	実 績 値	7,435.6	H16年度、H17年度、H18年度整備施設のH19年度稼働実績		
	(目標値・実績値単位:t-CO2/年)				
③経済活性化効果	<ul style="list-style-type: none"> ・木屑焚きボイラー整備事業 木屑焚きボイラー整備事業については、安定的な木屑供給により順調に稼働が出来、目標を上回る成果が得られている。 ・木質ペレットストーブ普及事業 木質ペレットストーブ普及事業について、今年度はペレットの早期購入の促進や、冬の気温が前年より低かったことで消費量が伸びたが、目標には未だ達成していないため、更なる工夫を施し、目標を達成することを期待する。 ・木質バイオマス発電施設事業 当初計画時よりも木材乾燥施設に使用する蒸気割合が増加したため、発電に供給する蒸気が減少し、秋以降は発電できない状況にある。二酸化炭素削減目標値を変更しても尚、達成には至っていないため、改善が必要である。 ・ペレットボイラー導入補助事業 温泉施設の利用者増加により、灯油ボイラーとの併用が余儀なくされ、達成率は芳しく無い状況にある。 ・全体として、林業日本一をめざすまちとして、木質ペレットストーブ導入とその普及事業に集中したプロジェクトの相乗効果に期待する。 				
	<ul style="list-style-type: none"> ・木屑焚きボイラー整備事業 木屑焚きボイラー整備事業について、従来廃棄されていた木屑を重油の代替燃料として活用したことにより、重油購入費、廃棄物処理費が軽減されており評価できる。今年度の木屑焚きボイラーの経済効果は、三陸木材の年間生産原価の15%に相当する、年間2億円に迫るコスト削減が達成出来ている。 ・木質バイオマス発電施設事業 年間約400万円の電気代の節減に相当する新たな経費を発生させている。 この解消の為、発電量を増加させ、購入電気料の圧縮を実施する取組みを進める必要がある。 ・ペレットボイラー導入補助事業 280万円の灯油購入費の削減が図れたものの、設置場所の温度が冬季に著しく下がることから、ペレットの使用量が増加し、灯油購入費削減を上回る新たな経費が発生している。 単純に燃料費のみを比較しても、150万円を超えるコストの増加となっている。 ・全体として、地域産の木質ペレットづくりと林業の活性化をつないでおり、経済活性化効果は高い。 				
	④その他				
	<ul style="list-style-type: none"> ・平成16～18に整備した人材育成講座やパンフレット等がどう効果をあげているのか、継続性の効果把握が重要と考える。 				